

# News Letter

発行

認定NPO法人子どもシェルター モモ  
〒700-0861 岡山市北区清輝橋1丁目2-9  
電話・FAX 086-206-2423



## CONTENTS

- ・巻頭言 ..... 1
  - ・インタビュー「人」 ..... 2  
岡山北西ロータリークラブ  
会長 平松 信さん
  - ・アフターケアの新しい拠点 ..... 3
  - ・グッドガバナンス認証受ける ..... 3
  - ・特集ボランティアの活動 ..... 4
  - ・モモの家通信 ..... 6
  - ・あてんぼ通信 ..... 6
  - ・学南ホーム通信 ..... 7
  - ・事務局通信 ..... 8
- 表紙絵「春風」内村 晓

## 巻頭言

## 10年後の子どもシェルター モモ

認定NPO法人子どもシェルター モモ 理事長 東 隆司



2008年9月に子どもシェルター モモを設立してから既に12年半が経過しました。

虐待する保護者の下から緊急避難しなければならない子どもは少なくなったように見えますが、居場所をなくし、次の行き場所が見つからない子どもは増えているように思います。

子どもの実情は少しづつ変わっても、子どもシェルター モモの必要性は変わらないと思います。

モモの設立趣意書は、シェルターを必要とする子どもたちがいる限り、活動は継続しなければならないと宣言しています。

時代の変化に応じてモモを継続していくため、これまでの運営状況を振り返り、現状を踏まえて将来のモモのあり方を考えるために、昨年10月、理事を中心に10年後を考えるプロジェクトチームを立ち上

げ、何度か集まって議論をしました。

今回のプロジェクトチームには新しく理事に就任された方に参加していただき、従来のモモにはなかった経営の視点や新しい社会的養護の視点から意見を聞くことができました。

議論の結果、具体的な目標として、運営基盤を強化するため社会福祉法人化すること、職員の待遇を改善し働きがいのある職場にすること、自立援助ホームとアフターケア事業を拡大すること、子どもの自立資金確保のための基金を創設することを目指し、将来的に若者の総合的な自立支援センターの役割を果たせる組織となることを目標に定めました。

プロジェクトチームは、本年2月6日の検討会で一応の議論を終えましたので、その結果を、本年6月に開催予定の定期総会で会員の皆様にお知らせし、ご意見をお聴きしようと考えています。



前列、平松信さん(左) 野田洋市さん(右)  
後列、鈴木一生さん(左) 原全伸さん(右)

## 心をひとつに

### 医師の道を選んだきっかけ

子どもの頃は岡山大学病院の近くに住んでいました。当時、周りは田園が多かったので、田んぼにいたカエルを病院の実験室に持ってくるように頼まれたり、病棟の屋上にある庭や運動場で遊んだりと、大学病院は楽しい思い出の場所でした。でも小、中学生の頃は絵を描くことが好きだったので漫画家になることを夢見ていました。また高校時代は建築家でした。ところが、高校2年生の末に岡山済生会総合病院で、看護学生さんが赤ちゃんを抱っこしてあやしている姿を目にした時、医療もいいなと思ったのです。その出会いが医師を目指すきっかけになりました。

医学生の頃、私が一番つらく感じたのは、動物実験でした。医学のために必要だと頭では理解しても、命をなくするのは本当に心苦しく、せめて痛みが無いようにと自分が担当して麻酔をかけました。

### チームで動く

私の専門は腎臓病です。昨年院長を退任して、外来診療に専念できる環境になりました。腎臓病を抱えている方は、ご高齢になるといろいろな病気が出てきます。それに対応して心身ともに総合的に診る全人的医療を心掛けています。看護師、栄養士、ソーシャルワーカー、在宅医療の医師や関係している方々とのチーム医療で患者さんを支えます。立場の違う人が、「この人には…」と考えを出し合い、互いに支え合うことがいい仕事につながることを実感しています。

実はロータリークラブの活動も同じなのです。国際ロータリークラブは、「世界で、地域社会で、自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために人々が手を取り合って行動する社会」を目指して活動している奉仕団体です

岡山北西ロータリークラブは1991年2月に発会し、

## インタビュー



国際ロータリー第2690地区  
岡山北西ロータリークラブ2020~2021年度会長  
岡山済生会外来センター病院 名誉院長  
腎臓病・糖尿病総合医療センター長

平松 信さん

今年で30周年を迎えました。会員の職業分類（仕事）は様々です。会社の経営者、企業の勤務者、医療関係者、弁護士、コンサルタントなど多職種です。この多様性がロータリークラブの魅力の一つです。異なる観点を持つ会員同士で問題を多角的にとらえ、それぞれの持ち味を發揮して活動しています。

北西ロータリークラブの今年度の目標を、「心をひとつに」としました。本年度の重点目標の一つに委員会活動の充実を掲げました。社会奉仕委員会では、子どもシェルターモモへの支援が挙げられています。

### 仲間が支えてくれる

本日同席している私の仲間を紹介します。原さんは、当クラブの社会奉仕委員会の委員長です。子どもたちに直接的な支援をするのはなかなか難しいけれど、できることをしていくこうと言っている頗もしい人です。野田さんは、2020年に子どもシェルターモモの理事に就任させていただき、北西ロータリークラブとモモのパイプ役として、子どもたちの厳しい現状を我々に教えてくれています。鈴木さんは若手のホープで、前々年度から社会奉仕委員会で活動しています。

モモとつながりを持つまでは知識が乏しかったのですが、東理事長、西崎副理事長、事務局からお話を聴かせていただき、会員の関心が高まりました。時には子どもたちと接する機会を作ってもらって、関わる人たちの大変さも話してくれています。

皆さんに支えられて会長の仕事ができていることを心から感謝しています。

北西ロータリークラブの社会奉仕委員会とモモとの付き合いは4年ほど前から続いています。社会奉仕委員長の原全伸さん、S.A.A.の野田洋市さん、幹事の鈴木一生さんもご一緒にお話を伺いました。取材が終盤に差し掛かる頃、野田さんが「平松先生はアフガニスタンで亡くなった中村哲医師によく似ているなと思うんです。お姿ではなくて、奢らず、威張らず、いつも患者さんのために、社会の為に、志の為に人生をかけておられる。このような素晴らしいお人柄に我々は集まり、導かれているんです。」と語られました。



## アフターケアの新しい拠点が決まりました！



前号19号の巻頭言で理事長が報告しておられたように、モモは令和2年度の休眠預金活用実行団体として指定されました。活用目的はアフターケアの拡充のために不動産の取得を挙げていました。場所の選定は、現在の事務所からあまり遠くない、できれば同じ学区内でと1年かけて探しました。空き物件を見つけ、交渉してきましたがなかなか決定には至りませんでした。今年度中には無理か…と思っていたところ、モモを支援してくださっている阪井土地開発(株)様所有の北区岡町にある4LDKの住宅(2階建)を購入することができました。令和3年4月1日に登記を済ませ、モモの所有物件となりました。

この建物は岡山市立岡輝中学校の北側に面した割合静かな住宅地にあります。1階を交流スペース、2階を個別対応できるスペースなどと用途を考えていますが、理事、ボランティアスタッフ、利用している若者たちの意見やアイディアを寄せ合って気持ちよく過ごせる場所にしていけたらと考えています。

### 非営利組織の信頼性の証

#### 「グッドガバナンス認証」を取得しました

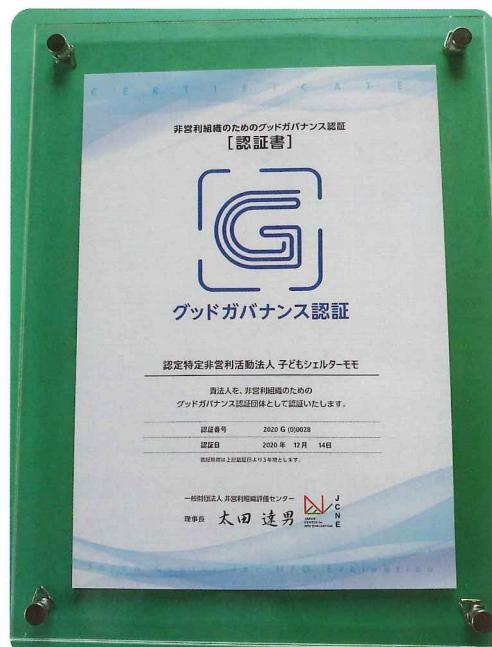
一般財団法人非営利組織評価センター(JCNE)の実施する「グッドガバナンス認証」は、市民参加の度合い、環境への配慮、財務・会計、社会への情報発信など組織運営に関わる27の評価基準を書面と訪問で審査。さらに外部の有識者から成るグッドガバナンス認証審査委員会の審議を経て認証されるものです。この度、モモは、岡山県内で2団体目となる「グッドガバナンス認証」を取得しました。

モモは多くの方のご寄付やご支援により成り立っているため、そうした多くの人々の気持ちを大事にして社会的信頼を高めるためには、第三者の評価を

受け、モモの信頼性を可視化する必要があると考え評価を受けることにしました。

今回の認証を受けるにあたっては、評価基準に基づいてモモの組織体制の見直しを行い、外部の専門家からのアドバイスを受けることができました。これからも多くの方々から信頼していただけるよう団体の透明性を向上させ活動していくたいと思っています。

また、今回「グッドガバナンス認証」を受けたことで、Amazon「みんなで応援」プログラムに参加させていただけることができました。このプログラムは参加している各団体の「ほしい物リスト」に掲載している商品を、閲覧した一般市民の方が購入してモモへご寄付いただけるものです。このプログラムが令和3年1月20日にNHKの情報番組「あさイチ」で紹介されたことにより、放送直後から全国各地からリストに掲載した、防災グッズ、自転車、履歴書、高卒認定のテキスト、漫画本、レトルト食品等々…118件を99名の方からご寄付いただきました。ご寄付いただいた物品は各ホームやアフターケアの子どもたちのために有効に活用させていただいている！



グッドガバナンス認証書

# 子どもたちの成長が見える場

子どもシェルターモモが運営しているアフターケア相談所「en」には、スタッフだけでなくボランティアが毎日スタンバイして来所する子どもたちに関わっています。

年齢は現役大学生から、人生経験豊かなシニアまで幅広く、経験年数は10年近いという方もおられます。ボランティアで関わるには、特別な資格は必要ありません。月～金曜日で担当曜日が決まっているので、中には「○○さんに会いたいから」と言って来る子もいます。本日は、ボランティアとして活動中の7人に集まっていたとき、お話を聞きました。

## きっかけは自分にできることは何かないか？

**Aさん：**私は、モモの活動が紹介された新聞記事を読んで興味を持ち、養成講座を受けました。子どもが悲しい事件に巻き込まれたニュースをテレビや新聞で見ながら、自分ができることはないのかと思っている時だったと思います。

**Bさん：**家庭環境が影響して子どもが犯罪に巻き込まれることがあると知って、何かできないかと思ったことがきっかけです。

**Cさん：**子育てが一段落した時に、モモ副理事長の西崎さんの講演で子どもたちの現状を聞き何とか力になりたいと思いました。今までたくさんの人々に支えられてきたので、次は私が社会に何かお返ししたいと思いました。

**Dさん：**大学生です。将来、福祉の仕事をしたいと考えているので、現場に入ってみて、子どもたちのリアルなニーズを知りたいと思っています。

**Eさん：**親元で暮らせない子どもたちの現実を聞いて、私の持っている資格や趣味が何かのお役に立てることができたらと応募しました。

## 時間がかかった子ども理解

**Fさん：**私たちは、基本的に、子どもたちの生育歴や抱えている事情をほとんど知りません。そのため、どのように子どもに関わったらいいのか迷うことがあります。

**Gさん：**気になっているのですが、子どもたちが台所の換気扇の下でタバコを吸っています。やめるように言わなくていいのかなと思うのですが。

**Fさん：**確かに未成年者の喫煙はよくないことですが、彼女たちが抱えているストレス発散方法の一つが喫煙なのだろうと私は理解しています。

**Aさん：**喫煙やリストカット、薬の過量服薬（OD）も自傷行為の一つですよね。「法律で決まっているから」とか「自分の体を大事にしよう」という言葉は、これまでにも大人からさんざん言われてきて

るはずです。子どもたちに接していく中で、世間の決まり事から外れていても、そうしないと生きてこられなかつたんだと理解しています。でもそう理解できるまでは時間がかかりましたけれど。

**Bさん：**同じような例ですが、下着が丸見えの姿勢で椅子に座る子がいて、叱られたいのか、かまってもらいたいのか、よくわからず困ったことがあります。私は我が子がそんな格好をしている時に、当たり前に親が言う言葉をモモの子たちにも言います。子どもたちからは、口やかましい大人だとその時は受けとられたと思いますが、次に会った時は、ケロッとして「見て、今日はスカート長いじゃろー」と言ってくるので、伝わったかなと思います。学校や職場では緊張して、自分を出せる場所がないので、モモでは飾らない自分を出していいと思ってくれているのでしょうか。

**Cさん：**2020年は同じ時期に出産した子が3人いたので、よく子守りをしました。赤ちゃんの世話は私にとっては新鮮で楽しかったのですが、どこまで手を出したらよいのか迷いました。おむつ替えはお母さん自身がすべきだと思うのですが、それを本人に言った方がよいのか迷いました。

**Fさん：**でも、モモが支援する子どもたちは頼れる実家がないのだから、育児で疲れているならおむつ替えやミルクなどは、ボランティアがやってもいいと思います。困ったことがあったら相談にのったりお世話する“近所のおばさん”といった立ち位置で、接していくべきかなと思っています。

## 過酷な生い立ち

**Aさん：**ある子が「私はミカンとバナナが嫌い。お母さんがいつも中身を食べて、私は残った皮だけを食べさせられたから」と話してくれたことがあります。親から受けた虐待の実情の一片を知り衝撃を受けました。

**Cさん：**「親が恨めしい、こんな人生になるとは思



わなかった」と言う子がいて、とても苦しんでいました。子どもたちのこれまで、私の生きてきた世界とは違うので、子どもの話にビックリすることも多いです。でも時間がかかりますが、いろいろ話してくれるようになり、子どもの苦しみを少し理解できるようになったと感じています。

Fさん：「親と路上で暮らしていた」、「学校に行かせてもらえないかった」、「生まれてすぐ施設に預けられ、親と暮らしたことがない」といったことを、ふと話してくれることがあります。そういう時に、どんな言葉をかけたらいいのかといつも迷います。人として試されているように感じます。

Bさん：私は来る子どもたちに平等に接するようしているつもりですが、知らず知らずのうちに偏ってしまって、「えこひいきしてる」と言われてしまったりました。

### 成長を感じ取れる瞬間がある

Eさん：初めて会った頃は、学校での辛い出来事を話しながら、友達や先生への攻撃的な言葉を発しながら、私の目の前で椅子を蹴飛ばすなど、モノに当たって感情を爆発させることが多かった子が、就職してしばらくすると、「職場にはイヤな人もいるけど自分のことを理解してくれる人もいるんだ」と穏やかに話してくれるようになりました。その子の成長ぶりを実感できるのが、私の喜びになっています。

Bさん：私も調理した総菜を「美味しい」と言ってくれたり、自ら手伝ってくれる子がいると嬉しさがこみ上げてきます。総菜はフードバンクから頂く材料で作るので野菜ばかりになるのですが、レシピ本を見たりしてレパートリーを増やすように努力しています。

Dさん：子どもと仲良くなると「見て、見て！これ可愛い？」と手作りの物を見せてくれたり、「次はいつ来るの？」と言われて教えると、本当にその日に来てくれたりすると、自分が必要とされて

いるのかなと内心嬉しくなります。

Cさん：最初の頃、体調が悪く、歩くのも辛そうなのに病院で処方された薬を拒否するので、“どうして自分を大切にできないんだろう？”と気になっていた子がいました。その子が妊娠したので「子育て大丈夫だろうか」と心配しましたが、出産後はしっかり子どもに関わっている姿を見て、これまでに出すことができなかった、彼女自身が持っている力を発見できて嬉しくなりました。

Aさん：バイトを頑張っているとか、自分で料理を作れるようになったとか、部屋の掃除ができるようになったとか、子どもの成長を感じられた時は嬉しいですね。

Gさん：enに来る理由を聞いたら「“まともな人”と話せる」と答えた子がいました。彼女がこれまで関わった人たちとは違う人との繋がりを求めていたんだなと感じました。

### これから

Bさん：これまでenに来る子たちとのみ関わっていましたが、ホームへも出かけることができたらと思っています。ホームには宿泊とか留守番ボランティアもあると聞いています。

Gさん：学南ホームやあてんぼには畑のできるスペースがあるので、野菜を植え、収穫を子どもたちと一緒にできるといいなあと思っています。

Cさん：アフターケアの場所が新しくできると聞いています。そこで高卒認定試験の受験準備や、ホームの高校生への学習支援ができるようになればいいなと思っています。

Aさん：新しい場所で土・日も開けるようになると、養成講座と一緒に受けた学生や、お勤めの方にも参加機会が増え、支援できる内容も増えるのではないかでしょうか。楽しみです。

モモにボランティアとして関わっていただくためには、①養成講座を受講していただく。②講座受講後、希望者に登録していただく。③その後、職員と一緒に活動に参加していただく。ことにしています。これまでボランティアには子どもたちが自身の未来像を描くにあたって重要な役割を担っていただいています。「ボランティア」という名称が良いのかどうか現在検討中です。いい名称が思い浮かんだらお知らせください。

2020年度はコロナ感染の終息が見えないので、「養成講座」は中止としました。来年度はできるようになると願っています。

発言者のアルファベットは編集の都合上、付けたもので、整合性はないことをお断りしておきます。

# 「モモの家」通信

寒さと暖かさが入り混じる、春らしい気候になってきました。昨年、新型コロナウィルス感染症が流行り始めた頃はこれほど感染が拡大するとは思っていませんでしたが、その後みると広がり、いまだ収束はしていません。仕事や学校で大きな影響を受けた人も少なくなく、この一年は多くの人にとて激動の年だったことと思います。私たちシェルターでも感染対策を取りながら日常の業務を続けてきました。

そんな中、ぽつりぽつりとやってくるシェルターアン所の子たちに変化が現れ始めました。それが実際にコロナの影響なのかどうかの確証はありませんが、この一年で、もしかしたらこの子はコロナが無ければシェルターに来ていなかったのかもしれないな、と感じることが何度かありました。

例えば、もともと家族の問題はあるが、ここ最近になって親子関係が悪化したとか、親への不満があり家出したものの、どうしても家を出たいという程でもなく、自立して働く気はない等、この子たちの共通点は、まだ親からの援助が受けられる環境にあり、心理的にも親への期待があり、親を頼る、慕う気持ちが比較的強い、というものでした。それは、これまでシェルターに来た子たちにはこれほどストレートには見られないものでした。

推測ですが、コロナで学校が休みになり家にいる

時間が増えたことや、家族の就労状況に変化が出るなどして、これまでなら何とかやり過ごせていたものが出来なくなったのかもしれません。

状況がどうであれ、それぞれの子にとって苦しいことには違いなく、また今行くところがないという意味では、シェルターの本来の目的と合致しているので良いのですが、ただ、あまりにも状況の違う子たちを同時に受け入れることの難しさはあるように思います。家に帰るかどうかを迷っている子と、家に帰る選択肢が初めからない子が一つ屋根の下にいたとしたら、彼女たちは何を感じるでしょうか。コロナに関係なく起こることではありますが、特にこの一年はその差が大きかったように思い、書き留めておきたいと思いました。

(文責:S・Y)



今年のお正月の食事

# 「あてんぽ」通信

## お菓子作り

コロナ感染対策により、昨年から外出規制や活動自粛が求められる日々が続いています。

あてんぽでも子どもたちの楽しみになっているイチゴ狩りや外食、お世話になっている方々をお招きしての焼肉パーティーやお鍋を囲む会といったイベントが出来ていません。

そんな中で、今、お菓子作りが子どもたちの楽しみになっています。

フードバンク岡山、フードシェアリングジャパンなどからいただいた食材やタルト生地、スポンジ台を使ってチョコレートやカスタードタルト、クッキー、ケーキなどを作ります。



生クリームや卵白を泡立てるのは初めてだった子も慣れてくると「飾りつけは、自分でやってみる」と、クリームを塗りチョコペンやアラザンで飾ります。

想いを寄せる人への誕生日ケーキのデザインや文

字をどうするか、数日前から悩んでいたりする子もあります。そうして出来上がったお菓子やケーキはスマホで撮影してインスタグラムに載せたり、知人に写真を送って報告するのも楽しみの一つになっているようです。

お菓子を食べながら「家でお菓子を作るのはお母さんと姉妹で、私は一緒に作らなかった」と話してくれたりもします。そんな時は「次は一緒にどんなのを作ろうか?」と話がもり上がります。作業をしながらいろんな話しができると、子どもと職員の距離感がほど良くなるようです。また、お菓子が焼きあがるまでのワクワクする時間と甘い香りは、癒し効果も抜群のようです。

まだ当分の間、規制は続くようですが「今度のケーキは生地作りから全部自分でやってみたい」と意思表示があり、あてんぼのお菓子作りはまだまだ続きます。

(文責:木口 優)



自立援助ホーム

## 「学南ホーム」通信

学南ホームは令和元年10月1日に開所しました。暫くは開店休業状態でしたが、11月の上旬に最初の入所者があり、そこからは12月末までに入所者が3人に増えました。そして1年たち、5人が巣立ち、現在4人の入所者がいます。中には「自立」というには不完全な送り出しの退所者もいますが、しっかり自立てステップアップした生活を送っている退所者もいます。

学南ホームでは月に1回入所者と全スタッフが一堂に会してホームミーティングを行います。ホームミーティングではホームの生活を感じている良いことや改善したいことなどを率直に出し、話し合って問題解決を図ります。時には子ども同士が一触即発になりかけ、スタッフが間に割って入ることも何度かありました。その結果、自分を上手く表現できずモノに当たる子やホームミーティングを避ける子もいましたが、いろんな考え方や価値観を持った人々がいる社会の中で、ホームミーティングを通して、相手を理解することや相手に理解をしてもらうこと、

社会に出て自分一人で考え、決断し生きていくための自律・自立する勇気と自信を育んでいく場だと考えています。また、その時の雰囲気や話の内容にもよりますが、ホームミーティングの後にはスタッフと子どもとでお菓子やジュースなどを飲食し、くつろぎながら子どもたちとのコミュニケーションもしっかりとっています。

もう一つ、入所者のほとんどが入所する前や直後に就労や就学を決めるようにしています。現在の入所者は全員就労、就学をしています。就労している中の1人は通信制の高校に在籍し、もう1人もこの4月から通信制の高校に入学します。また全員が次のステップアップの夢や希望を持っているので、「これが出来たら、あれがしたい・これがしたい」など折に触れて、スタッフと話し合ったりしています。

ホーム開所からまだ1年と半年ほどですがスタッフ一同、子どもにとって居心地の良い環境作りをていきますので、応援のほどよろしくお願いします。

(文責:佐原啓理)



庭に咲いている水仙



子どもが作ったお弁当

## 事務局だより

## 第12回子供たちの為のチャリティー オンラインプログラム から多額のご寄付をいただきました！

県内外で活動する有志・企業が集まり、「自分達で出来る社会貢献を…」をテーマに、特に未来を担う子どもたちをサポートしようと始められた取り組みで、毎年ゴルフコンペで集まったご寄付を頂いておりましたが、今回はコロナウィルスの影響でゴルフコンペは行わず、オリジナル動画を作成され、その収益をご寄付いただきました。オリジナル動画には東理事長も出演させていただき、モモについてお話をさせていただきました。ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

### 赤い羽根共同募金 ~「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト~

本プロジェクトは、1月1日から2月28日の期間に、専用の郵便振替用紙で募金をしていただき、集まった募金に加算して社会福祉法人岡山県共同募金会から助成をいただけるというものです。今年もたくさんの皆様にご協力を頂き、228万円もの助成をいただけましたこととなりました。今回のご寄付は休眠預金の助成金で獲得した新たなアフターケア拠点の整備のために活用させていただきます。ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました。

### イオン黄色いレシートキャンペーンに参加しています

このキャンペーンは、毎月11日に、黄色いレシートをイオンモール岡山に設置されている専用の投函BOXへ入れると、レシートの合計金額の1%が子どもシェルターモモに寄付されるものです。毎月11日にイオンモール岡山でお買い物の際は是非、レシートの投函をお願いいたします。2020年4月から2021年2月の間に投函していただいたレシートの合計は4,305,687円でしたので、その1%の43,100円のご寄付をいただけましたこととなりました。ありがとうございました。

### 編集後記



「やっと春が来た！」という思いです。2020年は新型コロナ禍で、取材も自粛することにし、年2回発行を予定していましたが、昨年秋にお届けする号が先延ばしになってしまいました。今春やっとお届けできることに安堵しています。新型コロナ感染予防策として、マスク着用と手洗いは習慣となりました。そのおかげか、インフルエンザ流行の話を耳にすることがない冬を過ごせたのは初めてかもしれません。今年度は、明るいニュースが多い一年になるように期待したいです。（東りえ）



北西ロータリークラブより防災グッズと  
高卒認定試験テキストをご寄付いただきました。



Amazonで購入してご寄付いただいた品々

- ご寄付は金額の多寡に関わりなく下記へご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835 特定非営利活動法人 子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付である旨ご記入いただければ幸いです。)